

岡山大学全学日本語コース新カリキュラムに対する評価 -2013年度留学生アンケート調査報告-

内丸裕佳子・坂野永理

Evaluation of the New Japanese Language Curriculum at Okayama University: An International Student Survey Report in 2013

Yukako UCHIMARU, Eri BANNO

要旨

岡山大学の全学日本語コースでは毎年カリキュラムの見直しを行ってきたが、受講生の多様なニーズに対応するために大規模なカリキュラムの改編を行い、2013年度前期から新カリキュラムで授業を展開することとなった。その効果を把握するため、2013年度前期末および後期末にアンケート調査を実施し、前期74名、後期78名の回答を得た。分析の結果、2013年度から新たに導入したトピック／技能別クラスの開講に肯定的な者が8割以上、日本語コース全体に満足している者が約8割おり、カリキュラム改編後の全学日本語コースに対する受講生の満足度が高いことが明らかになった。本稿では日本語コース全体に対する評価、総合クラスおよびトピック／技能別クラスに対する評価、新規開講科目に関する希望について報告する。

キーワード：ニーズの多様化、カリキュラム改編、カリキュラム評価、総合クラス、トピック／技能別クラス

1. はじめに

岡山大学の全学日本語コースでは毎年カリキュラムの見直しを行ってきたが、受講生の多様なニーズに対応するために大規模なカリキュラムの改編を行い、2013年度前期から新カリキュラムで授業を展開することとなった。この実施には「留学生の受け入れ拡大」という大学の基本方針が関係している。留学生の受け入れの中でも特に短期留学生（特別聴講生）の増加が見込まれており、彼らの日本留学の主要目的の一つが日本語の習得であることを考慮すると、日本語コースを充実させ、受け入れ環境を整備させていくことは必須の課題であると言える（中村，2005；花見・西谷，1997）。改編における主な変更点は、（1）受講生のさまざまなニーズに応えるために多様なトピック／技能別クラスを開講したこと、（2）学生の日本語学習にかけられる時間に合わせて週あたりに受講できる日本語のコマ数を1コマから7コマの間で選択可能としたことである（内丸他，2013）¹⁾。新カリキュラムの効果を把握するため、2013年度前期末およ

び後期末にアンケート調査を実施した。本稿では日本語コース全体に対する評価，総合クラスおよびトピック／技能別クラスに対する評価，新規開講科目に関する希望，今後の課題について報告する。

2. 新カリキュラムについて

【表1】は2013年度の開講科目一覧である。日本語コースは7レベルに分かれている。総合クラスは週4コマ開講され，読む・書く・聞く・話すの4技能の向上を図るクラスであり，トピック／技能別クラスは週1－2コマ開講されている。

【表1】2013年度開講科目一覧

レベル		2013年度前期開講科目				
		総合クラス (4コマ/週)	トピック/技能別クラス科目名(コマ数/週)			
初級	1	日本語1A	初級会話(1)	読み書き1 (2)		
	2	日本語2	読み書き2 (1)			
中級	3	日本語3	/	多読で学ぶ 日本語 (1)	映像で学ぶ 日本語1 (1)	
	4	日本語4			映像で学ぶ 日本語2 (1)	中級文法・ 語彙2 (1)
	5	日本語5				
上級	6	日本語6	/			
	7					日本語7(読む a)(1)
						日本語7(聞く a)(1)
						日本語7(書く a)(1)
		日本語7(話す a)(1)				

レベル		2013年度後期開講科目				
		総合クラス (4コマ/週)	トピック/技能別クラス科目名(コマ数/週)			
初級	1	日本語1A	初級会話 (1)	読み書き1 (2)		
		日本語1B				
	2	日本語2	/		読み書き2 (1)	
中級	3	日本語3	/	プロジェクト ワークで学ぶ 日本語 (1)	新聞・雑誌で 学ぶ日本語(1)	
	4	日本語4			中級文法・ 語彙1 (1)	/
	5	日本語5				
上級	6	日本語6	/			
	7					日本語7(読む b)(1)
						日本語7(聞く b)(1)
						日本語7(書く b)(1)
		日本語7(話す b)(1)				

3. アンケート調査の概要

アンケート調査の内容は次の3つに分けられる。

- (1) 日本語コース全体に関する質問
- (2) 総合クラスに関する質問
- (3) トピック／技能別クラスに関する質問

調査用紙は日本語版，英語版，中国語版，韓国語版を用意し，受講生の希望言語に合わせて配布した。調査は前期末の 2013 年 7 月と後期末の 2014 年 2 月に行った。前期 74 名（短期留学生²45 名，大学院生・研究生・予備教育学生 29 名），後期 78 名（短期留学生 48 名，大学院生・研究生・予備教育学生 30 名）の調査用紙を回収した。回収率は前期が 76.3%，後期が 75.7%であった。

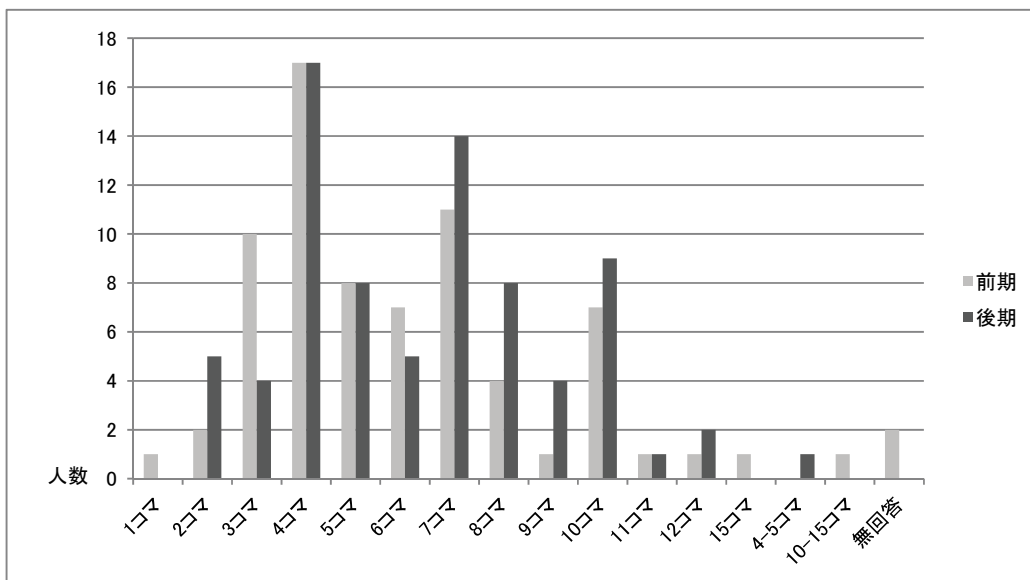
3. 調査結果

3.1 日本語コース全体について

日本語コース全体に関するアンケート調査の内容は次の3点である。

- (1) 週あたりの受講可能な日本語科目のコマ数
- (2) 受講科目数が増えたことに対する評価（5段階評価）とその理由
- (3) 日本語コース全体に対する満足度（5段階評価）とその理由

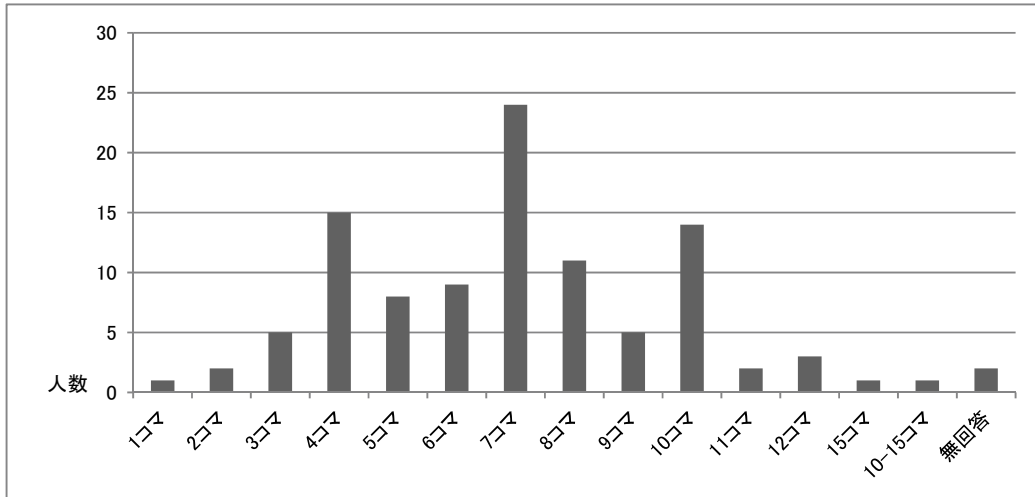
(1) の受講可能なコマ数で最も多かった回答は【図 1】に示すように，前期，後期ともに 4 コマで，次は 7 コマだった。



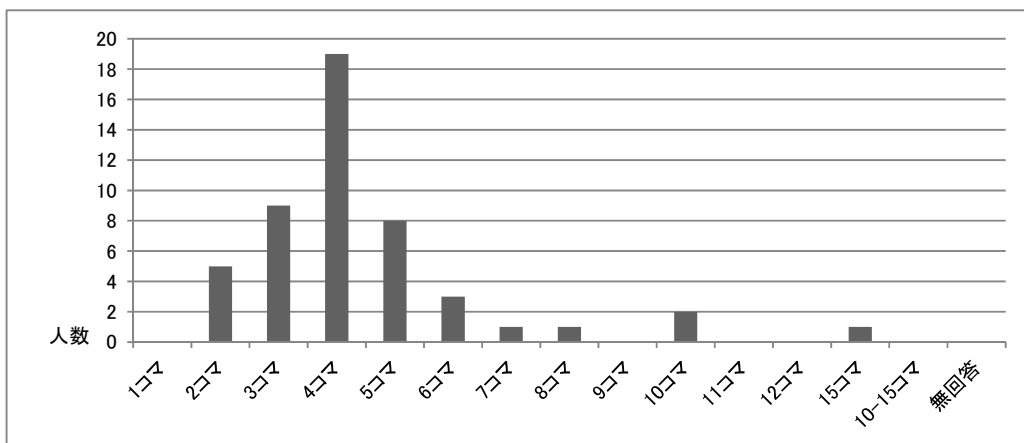
【図 1】 週あたりの受講可能コマ数 学期別回答

岡山大学に在籍する留学生が日本語学習に費やせる時間はその身分により異なる。短期留学生および予備教育学生は日本語学習に多くの時間を費やせるのに比べ，大学院生・研究生は研究で忙しく，日本語学習にかけられる時間は多くない（内丸他，2013）。【図 2】 および【図 3】

は前期と後期の回答をまとめ、短期留学生・予備教育学生と大学院生・研究生の身分に分けて受講可能コマ数を表したものである。



【図2】 週あたりの受講可能コマ数 身分別回答（短期留学生・予備教育学生）



【図3】 週あたりの受講可能コマ数 身分別回答（大学院生・研究生）

短期留学生・予備教育学生の受講可能なコマ数は7コマが多く、次いで4コマ、10コマとなっている。大学院生・研究生の受講可能なコマ数は4コマが多く、次いで3コマ、5コマとなっている。カリキュラム改編により1コマから7コマまで日本語科目の受講を可能にさせたことは、留学生にとって妥当であったことが窺える。

(2)の受講科目数が増えたことに対する評価は【表2】のとおりである。前期、後期ともに約7割が「非常にいい」または「いい」と評価し、受講科目数の増加を肯定的に捉えていると言える。

【表 2】受講科目数が増えたことに対する評価

	非常にいい	いい	どちらとも言えない	よくない	非常によくない	無回答	計
前期	22 名 (29.7%)	27 名 (36.5%)	17 名 (23.0%)	7 名 (9.5%)	0 名 (0%)	1 名 (1.4%)	74 名 (100%)
後期	20 名 (25.6%)	36 名 (46.2%)	19 名 (24.4%)	3 名 (3.8%)	0 名 (0%)	0 名 (0%)	78 名 (100%)

「非常にいい」または「いい」という評価には、「日本語能力が高められる」、「選択科目が多く、内容も豊かになる」、「自分の状況に合わせて授業が選べる」、「たくさん練習できるので、もっと速く日本語が話せるようになる」、「留学生の学習意欲を高めることができる」、「いろいろな授業を通じて単純な語学だけでなく、文化・社会体験ができる」、「この期間は暇だから授業がたくさんあるのがいい」、「文法、映像、多読のクラスが増えたので多くの友達ができる」といった理由が挙げられていた。一方、「よくない」という評価には、「授業科目が増えると、勉強に費やす時間の調整が難しくなる」、「授業の時間割がきつい」、「博士後期課程の学生なので、日本語に費やす時間がとりにくい」といった理由が挙げられていたが、その多くは選択科目が増えたことに対する評価というより、受講しなければならぬ授業が増えたことでの回答であった。これについては、前年度までの選択科目の少ないカリキュラムを知らない新しい学生が多く、質問の意図が伝わらなかったためと思われる。また、受講可能な科目が増えたことについて、前期、後期ともに「どちらとも言えない」という評価も多かったが、これも前年度のカリキュラムを知らない学生が多く、回答が困難だったためと思われる。

(3) の日本語コース全体に対する満足度評価は【表 3】のとおりである。前期、後期いずれも「非常に満足」、「満足」で約 8 割を占め、多くの学生が日本語コースに満足していることが窺われた。

【表 3】日本語コース全体に対する満足度

	非常に満足	満足	どちらとも言えない	不満	非常に不満	無回答	計
前期	26 名 (35.1%)	30 名 (40.5%)	14 名 (18.9%)	2 名 (2.7%)	0 名 (0%)	2 名 (2.7%)	74 名 (100%)
後期	24 名 (30.8%)	41 名 (52.6%)	12 名 (15.4%)	0 名 (0%)	0 名 (0%)	1 名 (1.3%)	78 名 (100%)

「非常に満足」または「満足」という評価には、「日本語力が高められる」、「日本語が上手になった」、「順調に前進していることがわかって嬉しい」、「母国の大学より速く学べる」、「教材がよく準備されている」、「体系的な授業が行われている」、「授業の内容は実際に使える」、「レベルが細分化されていていい」、「授業の内容も水準もちょうどいい」、「先生たちの熱意が高く、違う国の人々の考えに触れることができる」、「先生が優しいし責任感がある。授業の質もいいし、時間割も合理的。」といった理由も挙げられていた。「どちらとも言えない」という評価には「トピック/技能別クラスを 1 つしかとっていないのでわからない」といった理由や、「授業がもっとたくさんあればいいと思う」、「それほど多くの選択が与えられていない」、「いい授業もあるが、よくない授業もある」といった日本語コース全体に関する理由だけでなく、「時々クラスのスピードが遅いと思う」、「年齢に合った授業にしてほしい」、「授業

の難易度が学生のレベルに合っていない」, 「クラスの構成や教材に難点がある」といった個別の授業に対する問題点も挙げられていた。

以上の結果から, 日本語コース全体に対しては, 現行の受講可能コマ数が妥当であることがわかった。また, 受講生が開講科目数の増加および日本語コース全体に対して概ね肯定的に捉えていることも明らかになった。

3.2 総合クラスについて

総合クラスに関するアンケート調査の内容は次の2点である。

- (1) 総合クラスの開講に賛成か否かとその理由
- (2) 週あたりの開講希望コマ数

総合クラスは週4回, レベル1から6で開講されている。アンケート調査の回答者のうち, 前期63名, 後期68名が総合クラスを受講していた。

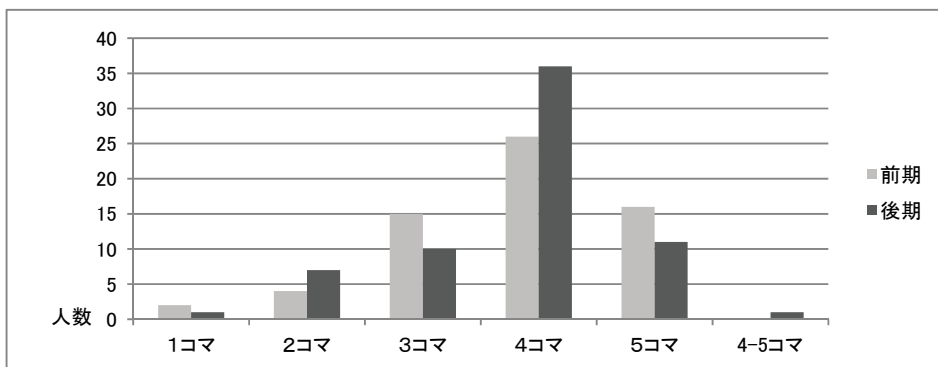
【表4】は, 総合クラスを受講している者を対象にした, 総合クラスはあった方がいいかとの問いに対する回答である。「はい」と回答した者は前期86%, 後期79%を占め, 多数の学生が4技能の向上を図る総合クラスの必要性を感じていることが明らかになった。

【表4】総合クラスはあった方がいいか

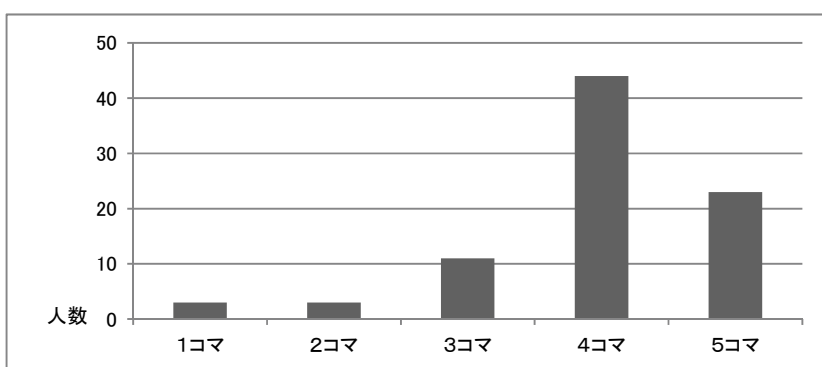
	はい	いいえ	わからない	無回答	計
前期	54名 (85.7%)	2名 (3.2%)	6名 (9.5%)	1名 (1.6%)	63名 (100%)
後期	54名 (79.4%)	1名 (1.5%)	13名 (19.1%)	0名 (0%)	68名 (100%)

「はい」と回答した者からは「短期間で集中的に学習できる」, 「各方面から日本語力が高められる」, 「トピック/技能別クラスで接する日本語には限界がある。基礎語学能力をつけるクラスが必要。」といった理由が挙げられた。「わからない」と回答した者の大半の理由は, 「人それぞれ違う。必要な人もいれば不必要な人もいる。」というものであった。

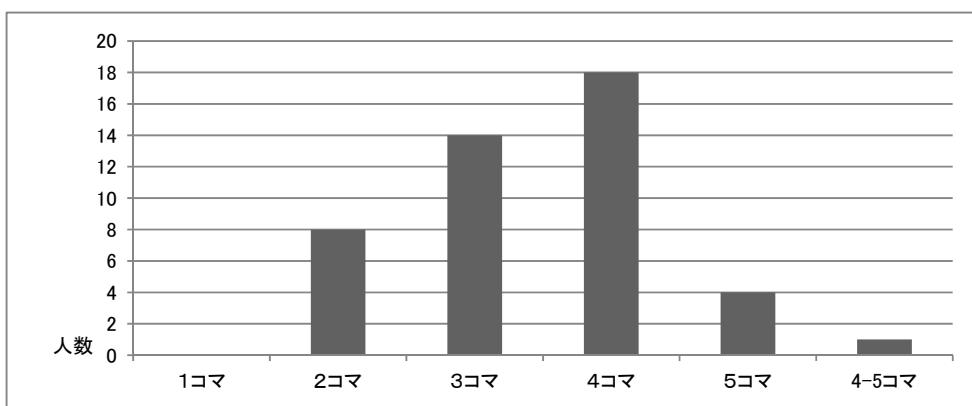
総合クラスの週あたりの開講希望コマ数を【図4】－【図6】にまとめた。【図4】から前期, 後期ともに週4コマが多く, 次に5コマ, 3コマの順であることがわかる。【図5】および【図6】は前期と後期の回答をまとめ, 短期留学生・予備教育学生と大学院生・研究生の身分に分けて開講希望コマ数を表したものである。短期留学生・予備教育学生は週4コマあるいは5コマの開講を望んでいる。大学院生・研究生は週4コマあるいは3コマという回答が多い。これらの結果を見ると, 週あたり4コマの開講形態は妥当であると言える。



【図4】 週あたりの開講希望コマ数 学期別回答



【図5】 週あたりの開講希望コマ数 身分別回答（短期留学生・予備教育学生）



【図6】 週あたりの開講希望コマ数 身分別回答（大学院生・研究生）

3.3 トピック／技能別クラスについて

2013 年度より新たに開講したトピック／技能別クラスに関するアンケート調査の内容は次の4点である。

- (1) トピック／技能別クラスの開講に賛成か否かとその理由
- (2) 現在受講している各科目について今後も継続して開講されることを望むか否かとその理由
- (3) 現在受講している各科目の週あたりの開講希望コマ数

(4) 新規開講希望科目

アンケート調査回答者のうち、トピック／技能別クラスを受講していた者は、前期 57 名、後期 67 名であった。

トピック／技能別クラスを受講している者を対象とした、トピック／技能別クラスがあった方がいいかという質問に対する回答は【表 5】のとおりである。トピック／技能別クラスの開講を肯定的に捉えていた学生の割合は前期 84%、後期 85%であり、トピック／技能別クラスへのニーズも高いことが窺える。

【表 5】トピック／技能別クラスはあった方がいいか

	はい	いいえ	わからない	はい&いいえ	無回答	計
前期	48名 (84.3%)	1名 (1.7%)	4名 (7.0%)	3名 (5.3%)	1名 (1.7%)	57名 (100%)
後期	57名 (85.1%)	0名 (0%)	9名 (13.4%)	0名 (0%)	1名 (1.5%)	67名 (100%)

「はい」の回答の理由としては、「役に立つ」、「日本語能力の向上になる」、「おもしろい」、「自分のニーズに合わせて科目が選べる」、「総合クラスで扱わなかった内容を補充している」などが多く挙げられていた。また、「語彙と文法は必要と思う」など個別のクラスに関する意見も見受けられた。「わからない」、「いいえ」、「はい&いいえ」の回答の理由としては、「良かったクラスとつまらなかったクラスがあるから」という理由が多く挙げられていた。

調査項目(2)のトピック／技能別クラスを受講している科目が今後も継続して開講されることを望むかについて、その結果をまとめたのが【表 6】である。

【表 6】翌年度以降の継続開講を希望する学生の割合とその科目数

継続開講希望割合	科目数
40-49%	1
50-59%	1
60-69%	1
70-79%	1
80-89%	5
90-100%	7

トピック／技能別クラス 16 科目のうち、継続を希望する者が 40%未満の科目はなかった。全体としては 16 科目中 12 科目で 80%以上の学生から翌年度以降の開講希望があり、多くの科目は今後も継続することに問題がないことが明らかになった。80%以上の希望がなかった科目はいずれも 2013 年度からの新規開講科目であった。トピック／技能別クラスでは、一つのクラスに複数のレベルの学生が在籍することが多いため、教員は学生の多様なレベルとニーズを探り、試行錯誤しながら授業を行わざるをえなかった面があり、それが評価に影響したことも考えられる。開講希望の少なかった科目については、今後内容等を検討していく必要がある。

調査項目(3)の週あたりの開講希望コマ数については、現行コマ数を支持する意見が多く、この点においても現在の開講形態に問題は見られなかった。

調査項目(4)の新規開講科目については、前期と後期の回答数を合わせて 5 名以上の希望があった科目は、会話、日本文化、歴史、中級レベル以上の漢字、日本語能力試験対策クラス、

日本人学生とともに日本語で学べるクラスであった。これらの導入については既存科目の授業内容と合わせて検討していく予定である。

4. おわりに

本稿では 2013 年度から導入した新カリキュラムについて、その効果を把握するために行った受講生のアンケート調査結果を報告した。2013 年度前期末および後期末に受講生が日本語コース全体、総合クラス、トピック／技能別クラスについてどのように捉えているかを聞いた。調査の結果、以下のことが明らかになった。日本語コース全体については、週あたりの受講可能コマ数を 1 コマから 7 コマまでに設定したことは妥当であり、約 7 割が受講科目数の増加を肯定的に捉えていた。また、約 8 割の学生が日本語コース全体に満足しているという結果が得られた。総合クラスについては、4 技能を短期間で集中的に高められる点で約 8 割の学生がその開講を肯定的に捉えており、現行の週あたり 4 コマという開講コマ数も妥当であることが明らかになった。

トピック／技能別クラスについては、8 割以上の学生がその開講を肯定的に捉えていた。16 科目のトピック／技能別クラスのうち 12 科目については、8 割以上の学生から翌年度以降の開講希望があり、多くの科目は今後も継続していくことに問題がないことが明らかになった。これらの調査を通じて、受講生は新カリキュラムを概ね肯定的に捉えていることが明らかになった。

トピック／技能別クラスで継続開講の希望が少なかった科目はすべて 2013 年度からの新規科目であった。新規開講科目については今後も授業内容等を検討していく必要がある。言語教育センター日本語系では、2013 年度は前期および後期に、非常勤講師を含めた授業担当者による新規開講科目に関する授業実践報告会および勉強会を各 3 回実施した。こうした集いを通じて教員間で情報を共有しながら、授業内容や教授法に関する改善点を明確にするよう取り組んでいる。今後も継続して教員間での情報共有の場を設け、アンケート調査も行いながら、トピック／技能別クラスの開講時期、受講生のレベル設定、受講生数の調整、授業内容、新規開講科目について検討していく考えである。

注

- (1) 週あたりの受講可能なコマ数は、各レベル 7 コマを基本としているが、レベル 4 では 2013 年度前期に 6 コマ、レベル 3 とレベル 5 では 2013 年度後期に 8 コマとなった（内丸他、2013 : 87【表 5】）。
- (2) 岡山大学の国際交流協定による短期留学プログラム（Exchange Program Okayama (EPOK)）、大学間または部局間交流協定による短期留学プログラム、キャンパスアジアプログラム、日本語・日本文化研修留学生プログラムにより半年または 1 年間、岡山大学で受け入れる留学生を短期留学生として数えることにする。

引用文献

- 内丸裕佳子・坂野永理・森岡明美（2013）「岡山大学全学日本語コースのカリキュラム改編について」『大学教育研究紀要』9, pp. 79-88.
- 中村和泉（2005）「岡山大学短期留学特別プログラム EPOK-'04 アンケート調査結果に見る学生のニーズ」『岡山大学留学生センター紀要』12, pp. 59-74.
- 花見槇子・西谷まり（1997）「教育の国際化と短期留学生受け入れプログラム」『留学生教育』2, pp. 21-38.